

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「親の本当の気持ち」

就学時健診が終わり、本人及び保護者の就学先の意向を確認する相談や希望する就学先の学校見学がほぼ終了しました。保護者の意見を最大限尊重し、合意形成を図りながら就学先を決定するために、丁寧な就学相談を進めてきました。

相談の中で聞いた保護者の不安や悩み、疑問を紹介します。

- ・就学先はいつまで決めればいいのか。
- ・家族で話し合いをすればするほど、どうしたらよいか分からなくなってきた。
- ・就学について意見の食い違いが大きく、家庭の雰囲気（夫婦仲）が悪くなってきた。
- ・子どもが「みんなと同じ学級がいい」と話したので、通常の学級を希望したい。
- ・支援員配置ができることを知らなかった。
- ・支援員を年度途中からお願いすることはできるか。
- ・支援員を配置すると、周囲の子どもにからかわれるのではないか。
- ・通級指導教室を利用すると、学級での授業を抜けるので勉強が遅れるのではないか。
- ・通級指導教室は、週にどれくらい利用できるのか。
- ・特別支援学級を見学した際、制作活動をしていたが我が子にそういった活動が必要か。
- ・特別支援学級に入級しても、なるべく通常の学級と交流する時間を増やしてほしい。
- ・特別支援学級入級を希望したいが、子どもにどう伝えたらよいか分からない。
- ・特別支援学級に入級すると、いじめやからかいの対象になるのではないかと心配だ。
- ・特別支援学級に入級すると、卒業するまで通常の学級に戻れないのか。
- ・特別支援学級に入級すると、高校受検はできないのか。
- ・特別支援学級に入級するが、入学式ではみんなと同じ列で五十音順に呼んでほしい。
- ・特別支援学校に入学すると、毎日の送り迎えが大変になり、仕事に影響する。
- ・特別支援学校に入学すると、これまで一緒だった友達との関係が途切れてしまう。
- ・特別支援学校の寄宿舎に入るための条件はあるのか。
- ・みんなと同じようにできないかもしれないけど、通常の学級で挑戦させたい（多数）。



多くの保護者の本心は、地域の学校で通常の学級を希望しています。就学相談で「正解」を示すことはできません。私は「基本的な考え方」として、子どもの実態把握を基に、年度途中の環境調整は難しく、失敗してから環境を変えるより、早くから手厚い指導・支援を受けられる特別支援教育を利用して、子どもの可能性を引き出すことを勧めています。「この学校を選んでよかった」と思ってもらえるよう、目に見える成果を上げてほしいと思います。

**とれたて直送便**

「夜遅くまでYouTubeを見る子どもたちが増えている」

ある園で夜の11時頃までYouTubeを見ているお子さんが複数いることが話題になった。子どもは「～したい」という欲求や衝動をコントロールすることが難しいため、見れば見るほど見たくなる。その結果、就寝時間が遅れて睡眠リズムが崩れる。行動を急にを変えることはできないので、例えば食事の時間は見ないなど、今できることを一歩ずつ改善していく。睡眠リズムが乱れているときは、早寝よりも朝一定の時間に起きることを続けることで、早寝もできるようになる。また、最低限の使用するルールを決める。多すぎる、厳しすぎるルールは効果的でないので、子どもと相談して決める。その際、「大人が決めること」と「子どもが決めていいこと」を区別して教える。子どもが「泣いて騒ぐと思い通りになる」と誤学習しないように気を付ける。毅然とした態度で「ダメなことはダメ」と伝えることも必要である。